



天皇であり続けていただき ありがとうございます。

心
あ
つ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

NMCAA
NO3

平成も今月で終わります。2月24日の天皇陛下御在位30年記念式典でのお言葉を讀みますと、天皇陛下のなされてこられたことが感謝と感動とともに心にしみてきます。天皇として即位して以来今日こんにちまで、日々国の安寧と人々の幸せを祈り象徴としていかにあるべきかを考えつつ過ごしてきました。天皇陛下が11歳の時に終戦となり、天皇は象徴に変わりました。当時の慣例に従いわずか3歳で親元から離され、教育を受けたそうです。はじめから象徴としての教育を受けたわけではなく、象徴とは？を自ら模索し続けて、その姿を国民に見せてくれました。65歳の誕生日記者会見では、**「国と国民のために尽くすことが天皇の務めであると思っております。」**数々の被災地訪問で膝をつき目線をあわせて声をかけられる姿が思い出されます。どこへでもすぐに駆け付け、東日本大震災の時はお見舞いのメッセージがテレビから放送されました。

また戦後の慰霊のための訪問では、当時の沖繩は、まだ受け入れられない感情があつたため、訪問反対の意見もあつたそうです。陛下は絶対見なくと押し通し鬼気迫るものがあつたそうです。海外での戦没者の慰霊碑に頭を下げられる映像を見ていると、戦没者にとつて、ものすごい供養になるように感じられました。三十年記念式典での**「平成の30年間、日本は国民の平和を希求する強い意志に支えられ、近現代において初めて戦争を経験せぬ時代を持ちました。」**「皇太子時代に戦争を経験した陛下が最も望まれたことだつたかもしれないと思われました。

生前退位の理由は、身体の衰えで全身全霊でできなくなるといふこととでした。全身全霊でやっていたくださつたことが、本当に嬉しくありたいと思ひました。三十年記念式典のお言葉からは**「天皇としてのこれまでのお務めを、人々の助けを得て行くことができたことは幸せなことでした。」**私がこれまで果たすべき務めを果たしてこられたのは、その統合の象徴であることに、誇りと喜びを持つことのできるこの国の人々の存在と、過去から今に至る長い年月に、日本人がつくり上げてきた、この国の持つ民度の

お陰でした。陛下は国民との協力で成しえたお仰つてくださりました。なにより天皇として幸せだったということでしたので、ああ本当に良かった、心から本当にありがとうございました。ありがとうございます。ありがとうございました。

編集後記

日本という国は、国民の幸せを願うことをただやり続けている。天皇陛下と、ありがとうございます。と感謝して慕う気持ちのやりとりを連綿としてきた国なのだ、あらためて感じました。とても誇りに思えることだと思ひます。日本人の心に流がれているのは、数年で作つたものではなく重みのあるものでもありません。